

3. 3 愛知用水第 1 回東京陳情



初の東京陳情を大成功裡に終えた知多農村同志会代表
(首相官邸前にて)

農林省農地開拓局より、豊明村を通し、「年内 20 日以降、なるべく早く、愛知用水の建設促進の陳情に上京せられたし」の連絡あり。愛知用水建設期成会の幹事会を開き、同時期の市町村長は年末多忙で上京はむりだということで、農村同志会で陳情することに決定。

昭和 23 年 12 月 23 日、朝、朝食をすませ、全員、予定時間に有楽町駅に集合し、例の地図を先頭に、農林省開拓局、毎日ビル 2 階へ乗り込んだ。

伊藤開拓局長が、今日に至るまでの経緯を説明し、久野庄太郎が陳情団を代表して陳情の主旨を述べて、浜島辰雄が例の地図について、計画の要旨の説明を始めた。

農林省側の中から大きな声で、「浜島！ てめい、偉いことを考えたなあ」と言う人があった。陳情側も、陳情を受ける方も、みんなびっくりして二人の顔を見た。浜島は、「あ！松田先生」と絶句した。

松田建設部専門官は、昭和 13、14 年頃、三重高等農林の農業土木担当教授で、陸上競技部の監督教官でもあった。

当時、浜島は、中距離の選手で、毎日遅くまで真っ黒になって練習をしていた。10 年ぶりの再会で、松田専門官から、嬉しさと驚きで昔の言葉が飛び出したということである。このようなハプニングも、農林省側にはほほ笑ましく、興味深く聞いてもらって、好評裡に陳情も終わった。

農林省側をお送りして一休みしていると、^{あけだたくみ}緋田工が「ちょっと皆さん、集まってください。今日の午後に得た警察情報ですが、昨晚無罪釈放となった岸信介が、弟の佐藤栄作の

家に泊まっていると聞き、事情を話したら、少人数の人なら会ってもよいと言うから、会いに行きたいと思いますが、いかがですか」と言った。「それでは、久野、浜島、緋田で翌朝 10 時に会いに行く」ということになった。

昭和 23 年 12 月 24 日 予期せぬ岸信介氏訪問

吉祥寺の佐藤邸に 10 時前に到着。岸元商工大臣に緋田は、出獄のお祝いの言葉を申し上げ、今般の上京の理由を説明し、久野庄太郎が例の愛知用水の大地図を広げ説明を始めた。聞き終えた岸信介は、「私が巣鴨から出て来た翌日に、こういう国家的大事業の話を聞くのは、まことに幸せである。この話は私が聞くより弟に話して下さい」と弟と呼ばれた。

吉田内閣の官房長官佐藤栄作に緋田よりあらためて、それぞれを紹介し、久野は、例の地図を前に説明を始めた。佐藤官房長官も、「この話は私が聞くよりも総理に聞かせて下さい。明朝 10 時に全員で総理官邸に来て下さい」と言われた。

久野は感激して涙を流しお礼を言って、明日を約束して佐藤邸を辞去し、待っていたタクシーで開拓会館に急ぎ帰った。

昭和 23 年 12 月 25 日 吉田茂総理大臣に直接陳情

佐藤官房長官から早く来るようにと催促があり、官邸の門衛にやっと入れてもらえ、急いで中に入った。吉田首相にさっそく地図を広げて、久野は説明を始めた。

吉田首相から「食糧の増産量は？人夫はどれくらい使うか？」と次から次へと質問が出た。最後になって、吉田首相が大きな声で「食糧増産、失業対策、よいではないか」と言われた。

5 分の約束が、40 分になってしまった。この陳情があつて、農林省も昭和 24 年からの調査予算をつけるのにも自信を持って予算要求をすることができたと喜ばれた。結果、昭和 24 年より農林省は、愛知用水に対する直轄予算をつけることができた。